

会 議 録

会議名	第4回印西市地域福祉計画策定委員会
開催日時	令和2年7月21日（火）午前10時20分から午前11時10分まで
開催場所	印西市立中央公民館 4階 視聴覚室
出席委員	松山毅委員長、吉野康夫副委員長、小林久男委員、関野庄悦委員、山下順三委員、本田薫委員、岩本清委員、渡邊勝久委員、山口茂委員、中村智恵子委員、三島木健委員、近藤幸一郎委員、計12名
欠席委員	1名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 堀越課長、小作課長補佐、稲村係長、荒川、石井 [事業者] 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 池、山下
傍聴者	1名
会議次第 議 題	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 議 事 （1）第4次印西市地域福祉計画骨子案について 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・第4回印西市地域福祉計画策定委員会 次第 ・【資料1】第4次印西市地域福祉計画骨子案 ・【資料2】第4次印西市地域福祉計画の策定のための基礎資料

会議概要・審議経過

<p>1 開 会</p> <p>【事務局】</p> <p>【議 長】</p>	<p><資料の確認></p> <p><報告></p> <p>12名の出席により過半数以上であるため会議が成立する。 会議は公開で傍聴要領に従って行い、本日の傍聴人は1名。 会議録作成のため録音することを了承願う。</p> <p>議事進行を委員長にお願いする。</p> <p>本日の策定委員会の議事録署名人は、山下委員と本田委員にお願いする。</p>
<p>2 委員長挨拶</p>	
<p>3 協議等</p>	

(1) 第4次印西市地域福祉計画骨子案について

○事務局より説明

○質疑

【議 長】 ご意見ご質問等あるか。

【委 員】 基本理念の感想になるが「市民が自分らしくいきいきと暮らせるまち」は本当に素敵で、とても良いネーミングだと思った。だが、せっかくだが計画ができて市民に認知されないと何のための計画か疑問だ。前回策定委員会等で意見が挙がった1人でも多くの方に知ってもらうため、いかに広報するか。広報も情報提供に含まれると思う。これに関連して市のホームページに地域福祉バナーを作成し、クリックするとそこから全て閲覧可能にする件が検討事項になっていたが出来ていない。施策の体系をつくり市民に知ってもらうことが大事であり、認知されたうえで行動してもらうことが更に大事になる。もう少し何かできないか気になった。それから新型コロナ等は「基本目標3」に該当する項目だと思うが、こういった項目は含めないのか。地域福祉は、物理的・精神的において「人と人のつながり」があって成り立つと考える。ただ新型コロナのようなことが起きると全く遮断されてしまう。こういった状況で、どうするか。この部分を基本計画へ入れることができないかと考える。

【事務局】 ご指摘の通り市民の意識が高まらない部分がアンケート結果からも読み取れるため、力を入れるべきだと考えている。新型コロナに関連した内容を計画に入れ込む点については、今後の検討課題だ。単純なコロナ対策ではなく「コロナを踏まえて（我々は）どう動いていくか」の部分で、どの様か書いていくか検討が必要と考えている。持ち帰り検討することを了承願う。

【委 員】 基本方針・基本計画に関して意見することは難しい。私は町内会・自治会の役割は大切だと思っている。地域の要支援者に対して町内で助け合うといった点を自治会に提案しても「自治会へ協力しない人の分まで責任を持たされるのか」といった疑問の声が上がる。全ての人へ向けた福祉を行えることは理想であるが、できることから始める計画であって欲しい。自治会が面倒をみるが、支援が難しい方については行政・専門組織が面倒をみる体制を計画の中へ入れていただきたい。そうすることで、より現実的になると思う。それから自治会・高齢者クラブ・子ども会が減少している。これらの組織率を上げる計画をお願いする。地域の組織を守る体制づくりを重要項目に入れていただきたい。

【議 長】 ご意見としていただく。

【委 員】 全て新型コロナに関連してしまうが、コロナの影響でいままで我々にとって当たり前だった生活がガラリと変わってきている。例えばオンライン会議等で人と人が接触できる機会が少なくなり、これらは社会の仕組みとして変えられない。新しい日常で当たり前と思える施策を盛り込んでいく必要があると考える。それから委員のご意見にあった新たな感染症に対し我々がどう行動すべきかを是非「基本目標3」へ具体的に書き込んでいただきたい。

- 【委員】 「基本目標2-②相談体制・情報提供体制の充実」「福祉総合相談窓口の設置」について質問したい。このような窓口があると便利だと思うが、実際どのレベルで考えているか。例えば「成年後見人制度の利用促進」などを進められるような内容を考えているか。又は相談窓口で一度受け付けた後、各専門部署等へつなげる体制を考えているか。
- 【事務局】 具体的なことは、これから決めていく。福祉に関連した内容は全て相談を受ける。その後、必要に応じ専門家等関連する方々へつなげていく。その場で相談事が解決することが一番だが、無理な場合は対応できる方へつなげる体制を考えている。例えば成年後見人制度についても話を受ける形で進めたい。理想は、相談窓口へ電話すると何らかの対応が可能といった「よろず相談」のような窓口であれば市民にとって実のあるものになると考える。
- 【委員】 「基本目標3 地域での防犯・防災体制の構築」「避難行動要支援者支援制度の普及」について。単身者、独居の方、もしくはご家族と同居でも家族の力だけでは避難できない方の正確な情報を直接特定することは可能か。
- 【事務局】 例えば年齢が75歳以上の方、障害をお持ちの方を「要配慮者」として大きく括り、洗い出しをしている。その中で、自力で避難できない方へは「避難行動要支援者」として対応を検討している。ただ個人情報との関連もあり、ご本人から情報開示の同意を得てから対応となる。同意を得られない場合、対応は難しくなる。
- 【委員】 地域の防災会議等で「困っている方がいたら助けにいきたいが、どこに助けに行くべきか分からない」といった意見が多く挙がっていた。ご検討お願いします。
- 【委員】 コンサルに質問したい。どの部分が、現計画（第3次）から継続されているか。また地区座談会、アンケート結果がどのような形で（第4次計画に）反映され、どの部分が変更されているか。それから事務局にアドバイスされた点などを教えていただきたい。
- 【事業者】 課題を昨年度12月時点でまとめ、3月時点で整理した。これらを（資料2）基礎資料38ページ以降に総合的にまとめた。今後具体的にどう取り組み、捉えるかについて、市と相談していきたい。
- 【議長】 他いかがか。細かい内容については、素案の段階で議論になると思う。大きな方向性、つくり方・考え方についてご意見あるか。
- 【委員】 第3次の基本目標「施策の方向性」は三本立てだが、今回（第4次で）二本にまとめた理由を教えて欲しい。
- 【事務局】 福祉教育は、学校教育と重複する部分があるため意識向上、意識啓発と表現した。決して行わないという意味ではなく、表現として一括りになったイメージを持っていただきたい。

- 【委員】 私も同じ意見だ。第3次では「福祉教育」という言葉が入っていた。福祉教育は、ソフト面で小中学生の指導として非常に大切だ。なぜ取り除いたか気になった。学校教育といった話ではなく、福祉として最高施策になるため、その中に入っていないのはおかしいと感じる。
- 【事務局】 意識の向上を図るため教育等が必要であることを前提とした上で、このような文言になった。福祉に対する教育が必要である点は重々承知している。表現として「意識の向上」と括った。了承願う。
- 【委員】 福祉教育は小中学生のみに行う訳ではなく、大人に対する福祉教育が一番大切だと考える。よって、この部分で認識の違いがあると感じた。
- 【議長】 キーワードとして「福祉教育」という文言を入れるか再度事務局に検討いただきたい。わたしから1点。社協は活動計画を同時につくる予定か。
- 【委員】 活動計画も今年度中に策定だが、現状まだ着手していない。市の計画は、基盤や仕組みをつくる計画になると思う。社協の活動計画は、役割分担を市の計画と連動させていかななくてはいけないと考えている。アンケート、座談会での意見を参考にして早急に進めていきたい。
- 【議長】 行政の地域福祉計画の位置付けが、社会福祉法改正の中で大きく変わってきている。今回は高齢者の計画、障害者の計画、総合計画と同じ時期にスタートし、今まさに検討している。よって地域福祉計画をしっかりと計画の中に浸透させ、共通事項を同時に横断的に進める。地域福祉計画は、極めて理念的な計画になる。高齢者・障害者・子育て各計画は数値目標があり、法定計画でもある。ただ共通する基盤として相談窓口、虐待、権利擁護がある。少なくとも各計画の中の相談窓口に関する中身は、地域福祉計画と連動させて書いていかないと横断的に進めることは難しくなり（資料1）1ページにある上位計画を考えたとき整合性が取れなくなってくる。できれば次回の地域福祉計画策定委員会で各計画の作成者にオブザーバーとして参加いただき、各計画へどう反映されるか共有し落とし込めれば、それぞれの計画推進が一体化してくると思う。素案を作成するまでの期間、庁内での横のつながりを踏まえて提案いただきたい。令和元年12月に検討委員会の最終とりまとめがでた。これを含め今回作成していると思う。地域共生社会を市町村単位で進めていくか、地域福祉計画へ盛り込むかといった点が方向性になる。できれば印西市として、どの様に地域共生社会の報告書を落とし込むか計画段階で盛り込まないと、計画の推進もできない。正に今回が同時に議論できるチャンスだと考える。必要であればメール、書類ベース問わず本委員会へ意見聴取いただきたい。少し緊張感、スピード感を持ってこれから5年、10年先の印西市をイメージできる議論をしていただきたい。
- 【副会長】 福祉について高い望みではなく普通の生活ができる環境をつくるのは、我々であると考えている。そのためにお互い支え合える地域づくりをしていかななくてはいけない。なかなか実行が難しい面もあるが、みなさんと素晴らしい計画を作成していきたい。よろしく願います。

【議 長】 次回素案を拝見し、意見聴取したい。議事を終了する。

4 その他

○事務局より連絡事項等

・次回会議予定について

【事 務 局】 次回の策定委員会は9月開催予定。

5 閉 会

第4回印西市地域福祉計画策定委員会の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和2年8月27日

署名委員 山下 順三 _____

署名委員 本田 薫 _____